

所属名	事務事業名	ページ番号
国際課	国際交流員招致事業（JET事業）	2
国際課	アメリカ・グレンズフォールズ市との交流事業	3
国際課	韓国・釜山広域市蓮堤区との交流事業	4
国際課	中国・連雲港市との交流事業	5
国際課	佐賀市国際交流協会支援事業	6
国際課	留学生奨学金給付事業	7
国際課	フランス・クサック村との交流事業	8
国際課	多文化共生推進経費	9
国際課	日本語弁論大会開催経費	10

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	国際交流員招致事業（JET事業）	事業期間	平成 5 ～ 年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち	
	施策	29参加と協働によるまちづくり	
	基本事業	多文化共生の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	外国青年招致事業（JETプログラム）を活用して国際交流員を配置することにより、市民の国際交流の進展や異文化理解、地域での多文化共生を推進する。				
事業の対象者	市民				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所（園）での英語遊び活動 10回 ・公民館等地域での国際理解講座開催 21回 ・小学校での異文化理解講座開催 2回 ・市報毎月1日号「感シャンコーナー」執筆 12回 ・市の行事（事業）の公式通訳、翻訳 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	5,075				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
英語遊び、国際理解講座等の開催						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
33	33	50	50	50		

成果指標②						単位
参加者等交流した人数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
804	800	1,000	1,000	1,000		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
市が目指す市民との交流や多文化共生の推進について、交流員との共通認識、相互理解講座を開催するうえで効果的な内容や資料作成、また周知方法等についての工夫 SNS等による発信が活用できないか検討

令和3年度 事務事業進捗報告シート

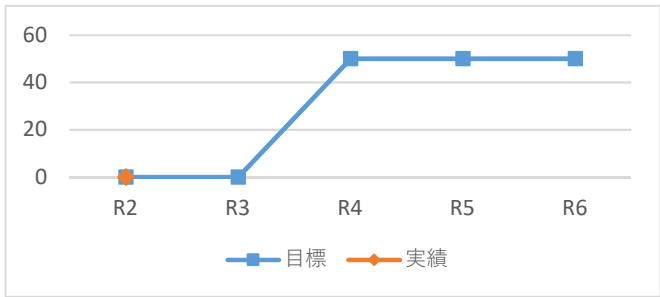
事務事業名	アメリカ・グレンズフォールズ市との交流事業	事業期間	昭和 63 ~ 年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち	
	施策	29参加と協働によるまちづくり	
	基本事業	多文化共生の推進	

1 事務事業の基本情報

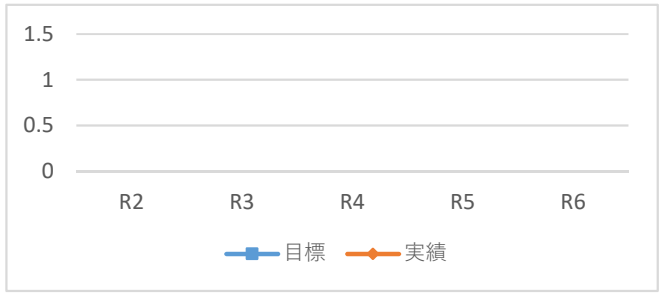
事業概要・目的	姉妹都市の盟約を結んでいるグレンズフォールズ市と教育交流、バルーン交流等を通じて得た交流体験から、異文化への興味関心と理解を深める。				
事業の対象者	市民				
令和2年度主な活動実績	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業はすべて中止 (姉妹短期大学生受入、バルーンチーム受入、中高生派遣を予定)				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	-				
うち佐賀市の負担額	-				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
訪問団の受入、派遣により交流（異文化体験）できた市民の数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	-	50	50	50		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
平時からの国際理解講座の開催等による市民への異文化理解の推進 派遣、受入等実施時の広報等事前周知

令和3年度 事務事業進捗報告シート

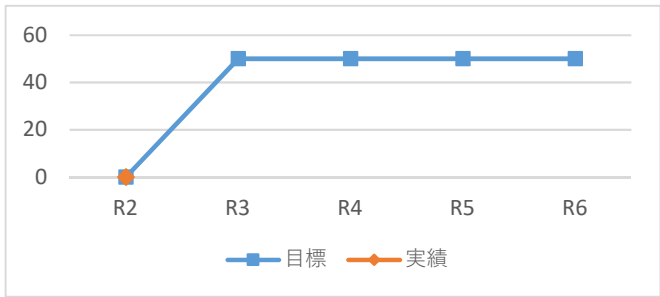
事務事業名	韓国・釜山広域市蓮堤区との交流事業	事業期間	平成 10 ~	年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志	
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち		
	施策	29参加と協働によるまちづくり		
	基本事業	多文化共生の推進		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	姉妹都市の盟約を結んでいる蓮堤区と訪問団の派遣・受入等を通じて得た交流体験から、異文化への興味関心と理解を深める。				
事業の対象者	市民				
令和2年度主な活動実績	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業はすべて中止 (公式訪問団の受入を予定)				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	-				
うち佐賀市の負担額	-				

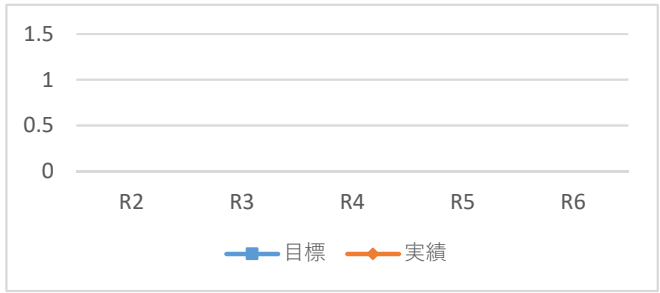
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
訪問団の受入、派遣により交流（異文化体験）できた市民の数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	50	50	50	50		



年度	目標	実績
R2	-	0
R3	50	0
R4	50	0
R5	50	0
R6	50	0

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
平時からの国際理解講座の開催等による市民への異文化理解の推進 派遣、受入等実施時の広報等事前周知

令和3年度 事務事業進捗報告シート

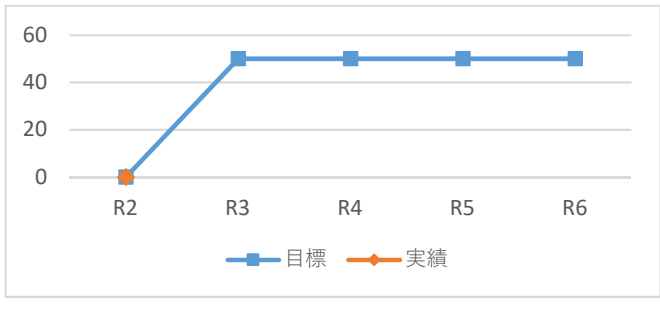
事務事業名	中国・連雲港市との交流事業	事業期間	平成 10 ~ 年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち	
	施策	29参加と協働によるまちづくり	
	基本事業	多文化共生の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	友好都市の盟約を結んでいる連雲港市と訪問団の派遣・受入等を通じて得た交流体験から、異文化への興味関心と理解を深める。				
事業の対象者	市民				
令和2年度主な活動実績	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業はすべて中止 (公式訪問団の受入を予定)				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	-				
うち佐賀市の負担額	-				

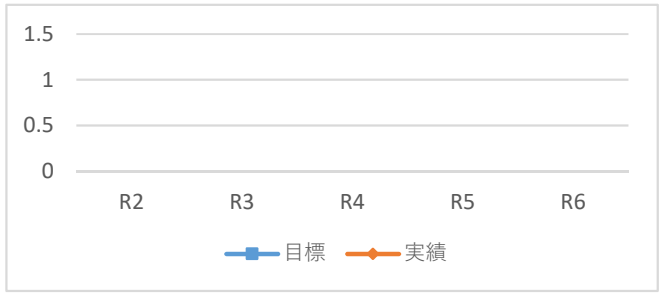
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
訪問団の受入、派遣により交流（異文化体験）できた市民の数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	50	50	50	50		



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	50	50
R4	50	50
R5	50	50
R6	50	50

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
平時からの国際理解講座の開催等による市民への異文化理解の推進 派遣、受入等実施時の広報等事前周知

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	佐賀市国際交流協会支援事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち	
	施策	29参加と協働によるまちづくり	
	基本事業	多文化共生の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市国際交流協会が実施する市民と外国人との交流事業を支援し、市と連携した国際交流、多文化共生事業を推進するために協会運営費の一部を助成する。				
事業の対象者	市民				
令和2年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生オリエンテーションの開催 2回 ・国際理解講座の開催 2回 ・国際料理講座の開催 4回 ・在住外国人によるパネルディスカッションの開催 1回 ・初級日本語集中講座の開催 3回 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	11,000				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
自主事業の開催数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
23	23	25	25	25		

成果指標②						単位
自主事業への参加者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
375	375	400	400	400		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
在住外国人との定期的な連絡調整や地域の国際化を目指す民間団体との連携が必要。 協会事業の効果的な周知方法を検討する。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	留学生奨学金給付事業	事業期間	平成 9 ~ 年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち	
	施策	29参加と協働によるまちづくり	
	基本事業	多文化共生の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生に奨学金を給付することにより、佐賀市での学生生活を経済的に支援する。 奨学金の支給で学業に専念しやすい環境づくりを手伝う代わりに、自分の特徴や長所を生かし、市内の国際交流・多文化共生推進活動へ協力を促す。 帰国後は、佐賀や日本の良き理解者として国際交流の担い手となるよう期待する。
事業の対象者	市内に居住し、市内大学等に在籍する外国人留学生で、大学等の学長の推薦を受ける者
令和2年度 主な活動実績	奨学生数年20人に月2万円を支給

決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	4,500				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
給付人数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
20	20	20	20	20		

成果指標②						単位
国際交流イベント等への参加人数（延べ）						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
29	40	60	60	60		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
<ul style="list-style-type: none"> 留学生を受け入れている学校と、学習環境を整えるための連絡会議を定期的に開催し、学内・学外の連携を深める。 奨学生の意見を取り入れながら事業を計画・実施し、協力体制を整える。 地域活動やイベント等に、奨学生を中心に留学生が積極的に参加できるような広報・仕組み作り

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	フランス・クサク村との交流事業	事業期間	昭和 63 ~ 年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち	
	施策	29参加と協働によるまちづくり	
	基本事業	多文化共生の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	姉妹都市の盟約を結んでいるクサク村と訪問団の派遣・受入等を通じて得た交流体験から、異文化への興味関心と理解を深める。
事業の対象者	市民
令和2年度主な活動実績	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業はすべて中止 (中学生の派遣、成人訪問団受入を予定)

決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	139				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
訪問団の受入、派遣により交流（異文化体験）できた市民の数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	100	50	100	50		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
平時からの国際理解講座の開催等による市民への異文化理解の推進 派遣、受入等実施時の広報等事前周知 (成果指標については、訪問団の派遣と受入を交互に実施しているため、受入年の交流が多くなる)

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	多文化共生推進経費	事業期間	令和 2 ~	年度
担当部署・係名	国際課 多文化共生係	担当課長名	武富 将志	
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち		
	施策	29参加と協働によるまちづくり		
	基本事業	多文化共生の推進		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じて多文化共生を推進し、市民誰もが安心して暮らし続けることができる地域社会を目指す。 ・関係団体と共に地域での交流を支え、在住外国人にもふるさとと感じてもらえるような風土を醸成する。 ・国籍・性別・世代などの違いを超え、市民全てが役割を持ち、地域で共に支え合いつながる共生社会を目指す。 				
事業の対象者	全市民、主に地域のまちづくりに関わる市民、在住外国人と日頃触れ合う機会のある市民				
令和2年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校文章の多言語化（7種類を6言語） ・市内留学生受入校との「留学生支援にかかる意見交換会」（7月、10月、令和3年2月） ・やさしい日本語 市報さが 発行（10月1日号～） ・やさしい日本語 職員研修（全庁職員対象 令和3年2月12日） ・多文化共生庁内関係課長会議（6月、令和3年1月） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	755				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
多文化共生会議、事業、研修、イベント等の開催・参加回数						回
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
33	40	44	48	53		

成果指標②						単位
やさしい日本語等、自主事業研修の出席者数						人
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
118	130	143	157	172		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
<ul style="list-style-type: none"> ・課で基軸としている概念図について、年度末・年度始めに進捗・目標を精査する。 ・在住外国人の実態・要望等を調査等で把握し、需要や問題点を随時把握する。 ・多文化共生関係団体が実施している事業の方向性・内容と足並みをそろえた事業の実施で、相乗効果を図る ・先進地の事例にならった事業・施策で、実施までスピーディーに行う。

令和3年度 事務事業実績報告シート

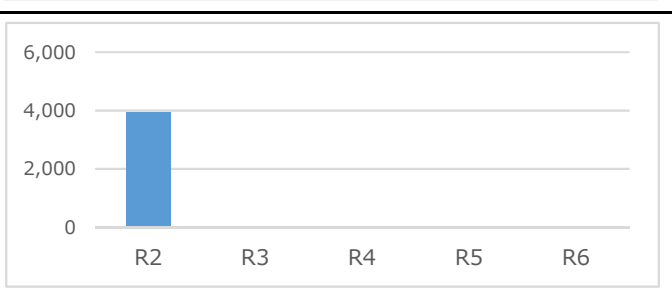
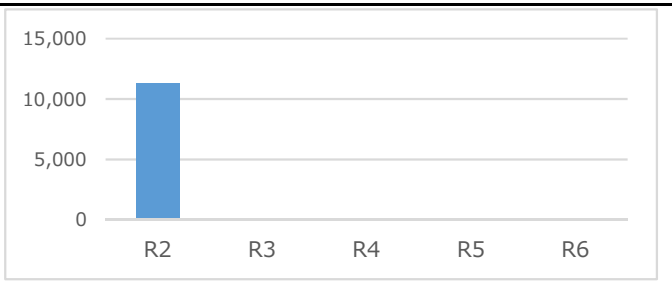
事務事業名	日本語弁論大会開催経費	事業期間	令和2～令和3年度
担当部署・係名	国際課 国際交流係	担当課長名	武富 将志
総合計画における位置づけ	政策	互いに尊重し合い、共に創るふれあいのあるまち	
	施策	29参加と協働によるまちづくり	
	基本事業	多文化共生の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	「外国人による日本語弁論大会」は、(一財)国際教育振興会と(独)国際交流基金が毎年国内各地の開催市とともに、外国人には日頃の日本語学習成果や日本の印象、提言等を発表する機会を、日本人には国際理解の場を提供し、国際交流・異文化理解促進を推進するため開催している。また、例年大会の来賓として高円宮妃殿下が御臨席される。令和3年度本大会を誘致・開催することで、市民の国際理解の機会を提供し、多文化共生に対する意識の醸成に資する。				
事業の対象者	市内在住日本人・外国人、特に大会を国際交流・多文化共生の学びの場と想定した児童・生徒				
根拠法令等					
決算額の推移(単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	1,210				
うち佐賀市の負担額	0				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
出場者募集広報紙(ポスター、チラシ等総計)					枚
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
11,300					
活動実績②					単位
出場者募集広報先					箇所
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
3,948					



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

- ・高円宮妃殿下のお成りにかかる手配、調整業務。
- ・令和2年度末の全国的な新型コロナウイルス感染症拡大(第3波)を受けての開催ガイドラインの作成。
- ・作成したガイドラインに沿った大会の広報、観覧者募集・受付作業
- ・大会開催(令和3年5月29日)